

区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
	五 橋	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当圏域は青葉区、若林区にまたがり、圏域内総人口 29,506人、高齢者数 5,489人、高齢化率18.6%(H27.3現在)で、高齢者数、高齢化率ともに増加している。</li> <li>・市内中心部に位置しているため、集会所等が少なく高齢者が集える場が少ない</li> <li>・集合住宅に住む高齢者の割合が多い。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・片平地区：地域関係機関の連携が十分に図れていない。</li> <li>・東二地区：回覧板も回っていないところが多く、高齢者の実態把握が難しい。</li> <li>・荒町地区：福祉委員がおらず、高齢者支援を行う担い手不足が課題である。</li> <li>・連坊地区：高齢者が集える場が少ない。</li> </ul>	<p>当センターが担当する4ヶ所の小学校区エリアで抱える課題に対し、生活支援コーディネーターを中心に、解決に向けた取組を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・片平地区：各地域関係機関の中で、地域支援に対する意識に温度差があるが、地域力が高い地域であるため、住民同士の連携が図れるよう、個別ケア会議等を通じ支援を行っていく。</li> <li>・東二地区：集合住宅が特に多い地域のため、それぞれのマンションの実情に合わせ、包括の周知と共に高齢者の実態把握が行えるように取り組む</li> <li>・荒町地区：福祉委員の設置については、住民の中での意見がまとまらず、高齢者支援を行う担い手が不足しているため、区CSWと共に地域で支えあえる仕組みが作れるよう取り組んでいく。</li> <li>・連坊地区：高齢者が集える場が少ないため、区CSWと連携し、介護予防教室等を活用しサロン等の立ち上げを行う。</li> </ul>
青	上 杉	<p>&lt;地域性と現状&gt;</p> <p>①上杉地区は官公庁が集中し、公共交通機関が通って、郵便局、銀行、スーパー、コンビニ、スポーツクラブが歩いて20分以内に複数あり、地盤が固く、震災時のライフラインの回復も早く、生活は利便性が良い地域である。</p> <p>②圏内には、医療機関、往診専門医、有料老人ホーム、高齢者優良賃貸住宅、介護老人保健施設、通所リハ、通所介護、訪問介護、訪問看護、小規模多機能施設、グループホーム、居宅介護支援事業所、等が複数所在しており医療、介護のサービスが利用しやすく、サービス機関同士での連携が図れており、関係性は良好である。</p> <p>③担当圏域の人口動態はH27年12月現在で総人口23,725人、65歳以上約3,800人前後、75歳以上1,850人前後と増加している。しかしながら、他圏域内の高齢化率よりは低く、圏域内高齢化率は16%となっている。</p> <p>④介護保険認定状況はH27年10.1現在で総数716人、認定率約19%(仙台市平均18.3)と介護認定率が高くなっている。</p> <p>⑤長年住んでいる高齢者は仲間意識が強く、地域での支えあい其自然と構築されている部分が多い。一方、利便性から住み替えた高齢者も見られ、それぞれに生活の価値観が違う為にその方々は相互の交流は殆どない。</p> <p>しかし、生活保護受給の高齢者も多く、決まったアパートでの生活を送っており、社会交流なく民生委員も関わりのない住民も多く存在している。</p> <p>&lt;地域の高齢化に係る課題&gt;</p> <p>①平成18年から「高齢者に優しい街作り」をテーマに地域の連合町内会、社会福祉協議会、民生委員、医療機関、介護保険サービス事業所等とネットワーク形成に努めた結果、顔の見える関係が構築され、何かあれば連絡と取り合い、お互いに協力する等の機関同士の協力的体制も確立されている。②築年数が増すマンションほど、独居高齢者や高齢夫婦の住人が多く住んでいる為に若い力や援助する人が少ない。また、新しいマンションには二重セキュリティからマンション内での交流が少なく閉じこもる高齢者が多く見られる。③要支援から要介護に移行した場合には居宅に引き継ぎを行うが、困難ケースでない限りは以降の情報が途絶えてしまう。又施設入居や死亡の案件の情報もないため、地域の諸団体からの確認に対応できないことがある。包括は圏域内の高齢者全般の支援を行うとしているが、情報量が少ない。</p> <p>介護予防に積極的な方は自らの健康意識が高く、包括はいかにアウトリーチを行い、本当に支援が求められる人を見つけ出すかが重要である。こういった住民は民生委員でも把握はできていない。</p>	<p>高齢者一人一人が自らの健康意識の向上が出来、また役割に気づき、積極的に社会に参加し、その役割を發揮できる地域づくりを目指し、地域のネットワークの再構築に努め、保健、医療、福祉の連携を図り長期的、継続的、包括的な地域包括ケアを進めていく。平成28年は機能強化専任職員を配置することにより、より地域に溶け込み、専門的な立場と住民の立場で地域貢献できるよう、近隣の包括支援センターと連携し、自ら地域に入っていく事とする。</p>

区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
葉	国見	<p>市中心の北西部に位置し、国宝大崎八幡宮を中心とした歴史あるお屋敷町の地区には地位や名誉の高い方が住み、戦後造成された住宅地には公務員・医師・教員が比較的多く住んでいる。高齢化率、介護保険認定率共に市の平均を上回っており、住宅地の町内会では高齢化率が3割を超えている所もある。担当圏域は3つの連合町内会から構成されており、学校区で見ると1つの中学校区で2つの小学校区がある。2地区併せると57の町内会があり、それぞれの地域性がある。</p>	<p>・地域に親しまれる身近な総合相談支援窓口として、担当圏域高齢者の心身の健康維持、保健、福祉、医療の向上、生活の安定のために必要な援助、支援を行う。                  ・担当圏域の医療機関や介護支援専門員との連携を図りながら関係機関、団体、各種事業所のネットワーク構築への支援を行う。  <b>【重点目標】</b>                  ・地域包括ケアシステムの構築に向け、関係機関や各種団体とのネットワークを強化し、他職種連携のもと地域課題に向けた取り組みの推進を図る。                  ・総合相談窓口としての機能強化を図り、適切な情報提供と状況に応じて社会資源に繋ぎ迅速な対応としなやかな支援を行なう。                  ・高齢者の権利擁護について関係団体や地域住民の理解を深めるために、普及・啓発への取り組みを継続的に実施する。                  ・認知症についての普及・啓発に努め、主治医や地域の関係団体と連携を強化しネットワーク構築を推進する。</p>
葉	木町通	<p><b>【現状】</b>                  ・高齢者数が4161人で高層住宅に住む高齢者世帯や一人暮らし高齢者が多いが、転勤や就学等により若い年齢層の居住者も多いため高齢化率は18.22%となっているが、住民同士の交流は希薄である。                  ・当センターは木町通小学校区と立町小学校区、通町小学校区の一部を担当している。中学校区エリアと各地域活動団体のエリア分けが違い複雑で、町内会数も40ヶ所近くあるが、廃止や活動休止の町内会もあり、地域実情の把握が難しい状況となっている。                  ・要介護等認定者率が18.9%で指定介護予防支援の対象者が240件を超えており、地域支援事業との両立に苦慮している。  <b>【課題】</b>                  ・地域活動の担い手の高齢化も進んでおり、若い世代に地域での支え合いの必要性への理解や地域活動への参加を働きかける取組が必要。                  ・地域ケア会議の開催方法や内容を工夫し、効果的に各関係機関とのネットワーク作りや強化を図る必要がある。</p>	<p>・包括圏域会議・個別ケア会議を継続し、地域課題の把握とネットワーク強化を図り、少しでも課題解決につなげられるように取り組んでいく。木町通地区については市民センター主催の定期的な連絡会があるため、参加者の情報提供方法の工夫を行っていく。                  ・高齢者虐待防止ネットワーク構築事業を行い、虐待防止に向けての取り組みを行っていく。                  ・圏域内にはマンションが多く、周囲から孤立している高齢者に関して認知症等が原因と思われる近隣からのトラブルの相談が増加している。個別ケア会議や認知症サポーター養成講座を開催し、地域で認知症高齢者等を見守り・支えられるような体制の構築を図っていく。                  ・把握した地域の社会資源や様々な情報については、職員間での情報共有を行うとともに、活用しやすいような整備を行っており、昨年度からは町内会エリア毎のマップ作成を開始している。特に多数ある集合住宅(マンション)の情報収集に力を入れており、引き続き内容を充実できるように継続していく。                  ・近隣センターと活動団体が重複している通町小学校区についても、隣接センターとの連携を図り地域住民の不利益とならないように支援を行っていく。</p>
区	双葉ヶ丘	<p><b>【現状】</b>                  ・古い住宅地。高齢化率は29.93%、後期高齢化率16.79%と高い。                  ・地形的には坂道が多く、住宅街のなかには道路が狭いところも多くある。                  ・地区社協、民児協、連合町内会は概ね1つ。22単位町内会あり。                  ・地区活動の中心は、80代前後と高齢化している。                  ・介護予防に関する意識は高く、自主グループなどサロンは14ある。  <b>【課題】</b>                  ・地域活動の担い手が高齢化(後継者問題を住民も実感)                  ・生活支援、移動支援に関するサービスが不足                  ・認知症の方、家族の介護に関する相談対応の増加傾向</p>	<p>◇地域における支え合いの体制づくりに向けて、人材発掘と共に具体的にやりたいことについて住民と協議していく期間とする。</p> <p>・認知症カフェを基点とした人材育成と支援体制の構築                  ・地域活動の新たな人材の発掘と育成                  ・地域課題に対する協議の機会の設置                  ・個別ケア会議の開催(継続)                  ・アウトリーチ機能の強化(継続)                  ・地域資源の把握と更新(継続)</p>

区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
	葉山	<p><b>【現状】</b>                      高齢化率は21.52%、市全体の21.74%とほぼ同様。                      要介護認定率は21.25%、市全体が18.23%に比べると高い。                      荒巻地区は連合会、社協、日赤、体振、民児協の5団体を中心に夏祭り等の地域活動を開催。荒巻地域防災協議会で災害対策に取り組んでいると同時に、荒巻地区個性あるまちづくり策定委員会でまちづくり事業に着手している。                      国見地区は国見地区ふくし活動連絡会を開催し地域団体のほか近隣大学とも連携、独居高齢者への見守り活動が盛んである。                      通町地区は地区社協でのサロン活動が活発、高齢者虐待防止ネットワーク構築事業を実施し、今後もネットワーク構築に向け地区社協と協議していく予定。</p> <p><b>【課題】</b>                      要介護認定率が市全体よりも高く、より積極的な介護予防の取り組みが必要。通町地区では復興公営住宅への入居が完了、孤立防止のための取り組みが必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種連携による支援体制の充実</li> <li>個別ケア会議と包括圏域会議の開催、事例検討会の開催</li> <li>・地域で認知症の方とその家族を支える体制づくりの中核として</li> <li>DASC-21の活用、認知症初期集中支援チームとの連携、幅広い年齢層へ認知症の普及啓発、認知症介護家族交流会・葉山オレンジカフェの開催</li> <li>・自立支援に向けた介護予防の推進</li> <li>介護予防の普及啓発、介護予防教室の開催、自主グループの立ち上げや活動の継続支援</li> </ul>

区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
	台原	<p><b>【現状】</b> 旧城下から郊外にかけての都心隣接域に属し、昭和30年代以降急速に開発が進んでいった戸建て住宅地が主となっている。起伏に富む地形、狭隘な道路、商店の偏在などが高齢者の生活に支障をもたらしている。一部を除き3つの小学校区で構成される圏域の総人口は約2万7千人、内65歳以上は約5千5百人で高齢化率は20%強であるが、後期高齢者数は約3千人、要介護・要支援認定者数約1千2百人は、いずれも市内の地域別でトップクラスである。(平成27年10月現在)</p> <p><b>【課題】</b> さらに進む超高齢化、高齢独居世帯や高齢者のみの世帯の増大、および認知症患者の増大、集合住宅化の進行等に備え、介護予防に対する意識や認知症に対する理解の向上、より多様な社会資源の開発、多様な主体の連携による地域全体での高齢者の見守りや支えあいを強化していくことなどが急務と考えられる。</p>	<p>1 地域で支えあう体制づくりの促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支えあう地域社会づくりの気運を高めるとともに、より広範な地域住民との協働領域を拡げ、主体的かつ実践的なレベルの活動の芽を育む。</li> <li>・個別ケア会議を活かした個別課題に関する支援の充実、地域の現状や課題の抽出、および社会資源等に関する情報の共有を図る。</li> <li>・包括圏域会議を活かした個別課題解決能力の向上、地域課題等にかかる意識と情報の共有、多職種連携・関係機関連携による地域包括ケア体制の構築および機能強化専任職員を中心として包括支援センター(以下「センター」)の機能強化を進める。</li> </ul> <p>2 認知症当事者とその家族を地域で支えていく体制づくりの促進 (認知症地域支援推進員を中心とした機能と活動の強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症当事者とその家族などの介護者が参加しやすいサロン、交流会等新たな手法による実効性ある支援策の開発</li> <li>・認知症に関する基礎的な理解の普及、および早期発見、支えあいの促進。</li> <li>・小中学校の子どもなどを含む若い世代への啓発</li> </ul> <p>3 介護予防に積極的に取り組んでいく気運の醸成と環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防教室への参加促進と、元気応援教室への参加に向けた誘導・支援</li> <li>・介護予防に地域ぐるみで取り組む自主的活動の立ち上げおよび運営の支援</li> </ul> <p>4 老人福祉センター、デイサービスセンター等併設施設との連携 併設による多機能性・連動性の強みを活かした事業展開を進める。</p>
青	花京院	<p><b>【現状】</b><b>【課題】</b>担当圏域は6つの小学校区に分れており、高齢化率は19%となっているが、地区毎に現状と課題に違いがある。</p> <p>東六地区は高齢化率17%となっている。地域関係役員も兼務が多い。地域行事や地区社協のサロン会(6ヶ所)活動も活発。復興公営住宅1棟も自治会立上げ計画、活動に参加しない方への働き掛けなどが課題になっている。</p> <p>北六地区は高齢化率18%となっている。9つの町内会毎の活動が多い。復興公営住宅1棟は梅田町内会加入した。課題として町内会を超えての連携が少ない等がある。</p> <p>中江地区は高齢化率28%と高い。特に県営アパート、庄慶会簡易住宅などは一人暮らし高齢者が多い。連合町内会と地区社協と連携がある。商店がないなど今後買物等や地区内に集まる拠点づくり、担い手の確保などが課題になっている。</p> <p>地区の一部を担当している小松島地区・台原地区・上杉地区は他担当地域包括と情報の共有と課題把握等を連携して行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親しみやすい、信頼される、相談しやすい総合相談窓口を継続していく。</li> <li>・地域活動に積極的に参加し、地域情報の収集を行う。</li> <li>・包括圏域会議を合同・地区毎に開催し地域関係者と情報共有と連携を図る。</li> <li>・地域関係者や介護支援専門員等へ個別ケア会議の開催を推進し、個別ケースの支援の支援検討と地域課題の把握を行う。</li> <li>・出張相談会、介護家族交流会・オレンジカフェ等を企画し定期的に開催できる仕組みづくりを行っていく。</li> <li>・地域毎の介護予防の取り組みを啓発し、サポート体制を強化する。</li> </ul>

区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
	大 倉	<p>【現状】・小学校区が5ヶ所あり広範囲に家が点在している農村地と住宅地が合わさり、広陵中学校区は市内で1番の高齢化率であり、介護認定者率では市内で大沢中学校区15位、広陵中学校区14位と上位の値を示しているなど、どの地域も高齢化が進んでいる。</p> <p>・農村地では古くからの地域支援体制が現在も生き続け良い面もあるが、要介護状態でも家族が介護を抱え込んでしまい問題を複雑にしている傾向も見られる。一方で住宅地では地域組織による活動が積極的な部分もあるが、隣近所の住民の関わりが希薄な所も多く、農村地と同様に介護の問題を家族が抱え込み実際に相談に至るまで時間が掛かっている状況もある。</p> <p>【課題】・どの地域においても引き続き住民一人ひとりに対する周知と、予防の観点での関わりは更に求められると思われる。</p> <p>・社会資源の量等の問題や、介護保険等のサービスだけでは解決できない事例（認知症・精神疾患・発達障害・経済困窮・キーパーソン不在等）も毎年増えており課題は多いが、地域との繋がりを更に強め、関係者ととも一つひとつ解決していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に事業の進捗状況の確認を行う。</li> <li>・地域住民一人ひとりに対して更なる周知・浸透を図る。</li> <li>・地域の特性について改めて各町内会ごとに集計・分析を行う。</li> <li>・対応困難事例に対して個々の担当制ではなく、チームアプローチを徹底する。</li> <li>・個別ケア会議、包括圏域会議開催をもとに地域の課題を解決していく。</li> <li>・対応困難事例に対しての課題分析と関係機関との支援の方向性の共有を図る（管轄の宮城総合支所保健福祉課等との連携の強化、認知症初期集中支援推進事業の活用等）。</li> <li>・昨年度に引き続き、認知症介護者家族交流会・相談会を継続的に開催する。</li> <li>・災害時要援護者リストの活用をはじめとして地域団体との防災対策の連携を図る。</li> </ul>
	あ や し	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・転居者が多いため人口が増加している。</li> <li>・処遇困難（キーパーソン不在・セルフネグレクト・障がいの方と同居）ケースの相談も増えてきている。</li> <li>・家族で介護を行い、重症化してから相談に来るケースが多い。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の周知は図れてきたが、重症化し相談に来るケースが多い</li> <li>・転居者が多く、支援が不十分な地域がある。</li> <li>・専門の医療機関が少なく連携が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民に対して地域包括支援センターの業務を周知する活動を継続して行う。</li> <li>・地域住民に認知症の普及・啓発活動を行い、包括的・継続的な支援体制の構築を行う。</li> <li>・自立支援に向けた介護予防の推進を行う</li> <li>・地域の各関係機関と連携・情報の共有、地域の課題を明確にして地域包括ケアシステムの構築を図る。</li> </ul>
葉	国 見 ケ 丘	<p>中山・川平地域(中山中学区)は高齢化率26.0%。認定者率は18.7%で、微増傾向。中山地域は昭和40年代から住んできた住民が高齢化し、独居や高齢世帯も多い。運動自主グループを立ち上げてきたが、歩いて通える範囲全てには整備できていない。孤立がちな人の見守り支援体制を商店街や地域と連携しながら構築が望まれる。インフォーマルな社会資源の把握、創出も課題。川平地域はサロン講師などを通じて地域との連携も定着してきた。運動自主グループの支援継続が必要。災害時要援護者の支援体制について把握できていない。</p> <p>吉成中学区は高齢化率25.0%で増加傾向。認定者率は15.7%で減少傾向。毎年65歳を迎える世代が多いと思われる。また、遠方から転入し、同居となつて、地域になじみのない高齢者も多い。介護予防や社会資源となるつながりを構築することが望まれる。孤立・閉じこもりのリスクを特に感じる地域もあるが、その把握や働きかけは、不十分。</p>	<p>計画的・目的意識をもち、相談・支援の効率化と質の向上をはかる。</p> <p>認知症への対応・介護予防・地域資源の把握、開発などに、地域の関係機関と連携しながら取り組むことにより、住み続けられる地域づくりに努める。</p>

区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
	南 吉 成	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当圏域の高齢化率:折立中学校区:29.71% 南吉成中学校区:26.11%</li> <li>・地域関係者の高齢者支援に対する意識は徐々に高まっているが、新たな活動に対する負担感が大きい。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者支援に対する地区関係機関の理解、協力は浸透しているが、一般住民においては支え合いの意識が低い。</li> <li>・地域支援に関わる方の高齢化、マンパワー不足が懸念される(特に折立地区)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の高齢者がこれからも安心して生活が続けられるよう地域包括ケアシステムの構築を目指し、より一層の高齢者支援に対する理解の促進、協力体制ネットワークの構築、個別の問題解決、地域課題の抽出と解決のための資源の創出につながる活動を実施する。</li> </ul>
	桜 ヶ 丘	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みやぎ生協桜ヶ丘店舗内にある地域包括支援センターで、担当圏域の境に立地している為、担当圏域外の来所相談にも対応し、了解を得て担当区域のセンターに引き継いでいる。支援者本人以外への対応が必要となる事象が多く、対応が複雑化している。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・桜ヶ丘地域の高齢化率は30%を超えている。比較的元気な高齢者も見受けられるが、相談に来所される方でもう少し早く相談に来所いただければと思うこともあり、地域に対するきめ細かな広報活動を一層強める必要がある。</li> <li>・地域内での、支え合い、見守り等の周知が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防・日常生活支援事業に向けたネットワークづくり(地域の支え合い体制づくりの推進)を継続し、機能強化事業の受託においては、これまで培ってきた地域とのネットワークの更なる強化として地域づくりの活動を推進し、地区社協、民児協等との連携をより深める。</li> <li>・認知症カフェ等を開催し、地域での集いの場を提供する。</li> <li>・圏域内の集会所の活用と宮城学院女子大学の施設利用を通じての連携を継続する。</li> <li>・認知症、精神障害等の研修には積極的に参加し効率的な伝達を行う。</li> </ul>
区	小 松 島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域全体の高齢化率は20.0%</li> <li>・家族が精神疾患などを抱えているために家族支援を始め、アルコール関連障害・経済問題等多岐に渡る支援が増えている。</li> </ul> <p>【幸町地区の現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幸町・幸町南小学校区の高齢化率は18.5%。商業地と公営住宅・マンションなどの集合住宅地が中心であり、住民同士の繋がりが希薄になっている。</li> <li>・幸町小学校区は町内会・社協・民協との連携がスムーズに行われており、地域の福祉活動が盛ん。</li> <li>・幸町南小学校区に幸町第3市営復興公営住宅が完成し、平成27年4月より38世帯入居。被災者支援を目的に集った支援者の会を中心に、幸町南連合町内会・地区社協・民児協の連携が有機的に行われるようになった。</li> </ul> <p>【幸町地区の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化率が非常に高い県営住宅では、人間関係の希薄さから地域の催事に出席する高齢者が少なく、コミュニティーづくりの場が活用困難になっている。</li> <li>・幸町南小学校区は就労世帯が多く、町内会長の単年度交代がほとんどで活動が活発に行えていない。</li> <li>・枡江小学校区においては、高齢化により町内会組織の婦人部がなくなり、町内会活動を運営する人材が不足しサロン会活動に支障をきたすようになった。</li> </ul> <p>【小松島地区の現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小松島小学校区の高齢化率は20.4%</li> <li>・独居高齢者の割合が高いため、地区社協と民協の連携により、配食事業・見守りやサロン会等の活動が定期的に行われている</li> <li>・毎月、社協連絡会により地域9団体と包括を含めて地域における福祉活動の現状と課題を協議し、情報共有が綿密に行われている。</li> <li>・サークル活動や4つの老人会が共同で活動を行っており、高齢者を中心とした多彩な取り組みを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幸町地区について</li> <li>・認知症関連事業・高齢者虐待防止における地域組織とのネットワークを強化する</li> <li>・小松島地区について</li> <li>・地域ケア会議での抽出課題を地域の活動に結び付けていく。</li> <li>・認知症関連事業を地域組織・住民と共に推進する</li> <li>・安養寺・自由ヶ丘地区について</li> <li>・既存の支援に加え、自主活動の無い地域において介護予防に関する意識向上のための介護予防教室を開催する。</li> </ul>

区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
		<p><b>【小松島地区の課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丘陵地域が多く、特に買い物・ゴミだし・雪かきの問題が抽出される。また世代間交流を含めたコミュニティづくりが進んでいない。</li> <li>・小松島第2市営住宅の高齢化率が48.8%で、町内会運営・コミュニティづくりに深刻な影響を与えている。</li> </ul> <p><b>【安養寺1丁目・自由ヶ丘地区の現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安養寺・自由ヶ丘地区は高齢化率が25.9%</li> <li>・自由ヶ丘・安養寺地区は殆どが宅地で経済的に安定している。</li> <li>・自由ヶ丘地区は町内会組織・地区社協・民協の連携が強く、町内会を中心とした高齢者行事が盛んに行われており、参加者数も非常に多い。</li> <li>・安養寺1丁目では独居高齢者が増加している</li> </ul> <p><b>【安養寺1丁目・自由ヶ丘地区の課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通機関が不便で盆地の地理であるため、集会所での自主的なサークル活動が全くなかった中、閉じこもり予防・地域活動活性化のため支援が必要である。</li> <li>・経済的に安定した世帯が多く、訪問販売・オレオレ詐欺による被害の報告が多い。</li> </ul>	

区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
	岩 切	<p>【現状】 岩切地区は平成27年10月時点で75歳以上の人口が1,574名、高齢化率は18.6%となり昨年同時期に比べそれぞれ69名、0.4%増加の傾向にある。圏域16町内は農村部、バス通りに面した旧住宅地、駅前のマンションが立ち並ぶ商業地、県民の森の麓に複雑に入り組んだ住宅地などがある。地区を担う関係機関の住民の高齢化がすすみ、地区をまとめる人材確保が困難になっている。高齢夫婦や独身の子供と暮らす障害、認知症高齢者の世帯が増えてきている。</p> <p>【課題】 ・町内によっては地域への関心や、課題についての意識が希薄。 ・関係機関同士のつながりや課題の共有が出来ていない。共通の認識を持つことが困難になっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症地域資源マップ等作成事業「COCOIWAの会」で作成したリーフレットを地域に配布、認知症やMCIについて住民への普及、啓発を行い、認知症カフェや家族の会へつなげる。</li> <li>・虐待防止構築ネットワークの研修会を実施、住民主体のワークショップへ展開していく。</li> <li>・地域のケアマネジャーのみならず、地域住民に関わっている圏域外のケアマネジャーも視野に入れ、研修会を開催する。</li> <li>・地域の住民や関係団体や利用者、事業者などの意見を幅広く汲み上げ、地域が抱える課題を把握し、解決に向けて地域特性や実情を踏まえた適切なセンター運営を行う。</li> <li>・高齢者が介護サービスや保健医療福祉サービス等を適切に利用できるよう、多職種連携をより進めていく。</li> </ul>
宮	東 仙 台	<p>【現状】 ・担当圏域には2つの小学校区(新田・東仙台)があり、どちらの地域においても、地域の関係機関にはセンターの周知が図れており、相談が入りやすい体制ができている。又、復興住宅ができ、センターの周知を行っている。 ・新田地区では介護予防教室の開催が盛んである。又、子育て支援に力を入れているが、支援には高齢者も参加しており他の世代との交流の機会がある。 ・東仙台地区では介護予防運動自主グループが3つあり、自主性の高い活動がなされている。又、地区の中学校がボランティア活動(消費者被害についての寸劇)を行っている。</p> <p>【課題】 ・高齢者や関係機関にはセンターの周知はある程度図れているが、それ以外の世代や機関との連携・協働という点では十分ではない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度は、地域包括ケアシステム構築に対する地域の理解を得ることに取り組んでいく。</li> <li>・どのような地域を作っていくのか、地域及び関係機関のニーズを把握するとともに、今ある社会資源を改めて見直し、活用していく。</li> <li>・地域へ向けた活動をより充実させ、地域の関係機関との連携強化に取り組んでいく。</li> </ul>
	宮 城 野	<p>【現状】 原町地区:宮城野区役所が地域の中心に位置しており、交通の便や医療機関・商店など利便性が高い。また、家賃が手ごろなため一人暮らしで生活保護世帯が集まる地域である。昔から住んでいる住人と、新しく転居してきた住人とが混在している。協力的な町内が多いが、役員の高齢化が進み町内会でも取り組みに差がある。 宮城野地区:銀杏町・萩野町・宮千代の3町内会を中心に、大規模マンションや自衛隊官舎・UR団地等の13町内会で構成されている。住宅地であり、それぞれの町内会独自の取り組みがある。役員の高齢化もあり、住民間の協力体制の差が見受けられる。</p> <p>【課題】 ☆高齢世帯への見守り体制(認知症・低所得・未受診など、潜在化傾向) ☆地域役員の高齢化と次世代への引き継ぎ(若い世代の取り込み)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 認知症の正しい理解と見守り体制を作っていく。</li> <li>☆ 高齢者が、地域で役割や居場所が持てるように、関係機関に働き掛けを行っていく。</li> <li>☆ 個別ケア会議を通して、地域の関係者(人的資源)を発掘していく。</li> <li>☆ 関係機関(民児協・町内会等)とのネットワークの強化</li> <li>☆ 地域のかかりつけ医と連携し、未受診高齢者が定期受診できるように医療連携を行っていく。</li> </ul>



区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
城	榴 岡	<p>【現状】 榴岡担当圏域の人口は28,147人、65歳以上の高齢者人口は4,818人、高齢化率は1.712%である。 地下鉄工事や区画整理に伴う再開発地域の為、一戸建てが減少し、マンションが林立しており、マンションに住む高齢者の独居や高齢者世帯が増えている。今年度、駅東と宮城野の2ヶ所に復興公営住宅ができ、入居者の6割が高齢者である。</p> <p>【課題】 独居や高齢者世帯からの相談件数が増加している。今後も高齢者人口が増える傾向にあり、認知症・心の病・権利侵害等様々な問題も増加している。 今後も関係機関と連携し要援護者の早期発見や状況把握をさらに進める必要がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターが高齢者や他職種との地域連携の拠点となり、住み慣れた地域が、住みたい地域になるように支援していきます。</li> <li>・高齢者が暮らし方を自分で選択し、自己決定することを重視して、住み慣れた地域で自立した生活ができるように支援していきます。</li> <li>・高齢者の個々の人格、個性を最大限に尊重し、その人らしい生活が継続できるように、多様な主体によるサービスがその方のニーズや状態の変化に応じて、スムーズに提供できるように支援していきます。</li> <li>・高齢者が社会参加・社会的役割を持てるように支援していきます。</li> </ul>
城	高 砂	<p>【現状】 ・担当圏域内総人口29,543人、高齢化率18.51%(H27年10月1日現在) ・七北田川を境に当センターと福田町地域包括支援センターが設置され、地域住民組織との連絡調整等には配慮を要するものの、連携体制が構築されてきている ・震災後、被災住民への個別的支援を継続している。仮設住宅から復興公営住宅等への移行も進み人口減少傾向にある</p> <p>【課題】 地域の変化や多様化する問題を把握し、効果的に対応できるよう、多職種連携を強化するとともに、地域における支え合いの体制づくりを具体的に推進して行く必要がある</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1)地域住民と協働による認知症についての寸劇や事例検討などから認知症カフェへの展開も含め、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを更に目指していく</li> <li>(2)地域関係者が理解しやすいよう情報を提供し、地域課題の解決に向けた個別ケア会議および包括ケア会議を開催し、地域力強化を目指す</li> <li>(3)地域と協働による介護予防教室の開催など、更に介護予防の普及啓発、介護予防自主グループの強化を目指す</li> <li>(4)地域力強化に向けた、企業と地域関係者の連携を目指す</li> </ol>
野	福 田 町	<p>田子中学校区 【現状】高齢化率16.88%とまだ低い地域だが、田子西市営住宅の完成と集団移転地域の戸建住宅にも転居が進み高齢者が増えた。古いアパートが多い地域で単身高齢者も多く住んでいる。運動自主グループが2か所と町内主催のサロンが2町内で定期開催されている。老人クラブが9団体あり高齢者の集う場はある。</p> <p>【課題】田子第1、第2市営住宅と福住地区は古いアパートも多く経済的困窮者、身寄りのない方、認知症、精神症状のある方などの相談が増えている。複数の課題を持った方が多く居住し地域の方と連携した支援が必要である。</p> <p>鶴巻小学校区 【現状】高齢化率20.25%と比較的高い地域である。単身高齢者や日中単身者が増えてきた。運動自主サークルが1か所ある。老人クラブは1団体である。</p> <p>【課題】古いアパートには経済的困窮者や身寄りのない方が多い。</p> <p>岡田小学校区 【現状】高齢化率24.18%と高い。運動自主グループが2か所ある。平成27年に上岡田に1か所立ちあがった。集団移転地域も含まれる地域で、閉じこもり予防、孤立防止にも有効である。</p> <p>【課題】浸水地区に家を再建し戻った方は集う機会が減っている。また家族介護が多く、虐待の相談などもあり、地域への認知症の普及啓発が必要である。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会資源の把握 ・既存の地域資源を地区ごと整理しファイリング、不足な資源とニーズの把握。地域に不足の資源を地域住民と確認し地域関係団体や母体法人と共同で今後必要な資源を作り上げるための計画を立てる。</li> <li>2. 地域づくりに向けた地域ケア会議と包括圏域会議を開催する。 ・各小学校区で包括圏域会議を年に各1回と全体会議を1回開催、地域ケア会議は定期開催を年3回と必要時は随時開催し両方の会議が有機的に連動して参加者や関係機関のレベルアップと地域力を上げる働きかけをする。</li> <li>3. 認知症の普及啓発・地域の認知症関連施設と連携した支援体制づくり ・認知症サポーター養成講座、権利擁護学習会の開催 ・認知症カフェなどの開催</li> <li>4. 田子西地区の実態把握と必要な支援 ・包括のPR、介護予防教室の開催、関係団体との連携した支援活動</li> </ol>

区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
区	燕 沢	<p><b>【現状】</b></p> <p>①担当圏域は宮城野区西山中学校区で、高齢者人口等の統計は下記のとおりです。                  担当圏域総人口 13,592人                  65歳以上人口 3,301人                  高齢化率 24.29%                  75歳以上人口 1,621人                  75歳以上人口率 11.93%                  ※(平成27年4月1日現在、仙台市統計より)</p> <p>②西山中学校区の要介護認定者数は下記のとおりです。                  要支援者数 382人(要支援1 272人、要支援2 110人)                  要介護者数 647人(要介護1 227人、要介護2 148人、                  要介護3 89人、要介護4 105人、要介護5 78人)</p> <p>③圏域の状況                  ・圏域南部・・・市営住宅や公団住宅などの集合住宅が多く、独居高齢者が多く居住しています。                  様々な生活ニーズを抱えている高齢者が多い地域です。                  ・圏域北部・・・戸建てが多い地域ですが、夫婦高齢者世帯や独居世帯が増えてきており、生活課題が集約されている地域となってきました。                  ・圏域中央部・・・戸建てが多い地域ですが、道が狭く坂道が多いため、高齢者の外出や買い物などの支援が必要な地域です。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>①復興公営住宅が2カ所に建設されて、被災者の新しい生活が始まっています。地域関係者と連携した支援体制を構築し、被災者支援を継続的に行うことが必要です。                  ②「閉じこもり」や「うつ」、そして「認知症」などの課題を持つ高齢者が増加傾向にあります。地域関係者や専門職者と連携した支援の強化を図ることが必要となってきました。                  ③認知症高齢者を抱える家族からの虐待の相談が時折寄せられています。潜在化しないように、地域関係者と連携した発見機能や見守り機能を構築することが重要となってきました。</p>	<p><b>【運営方針】</b></p> <p>地域に居住する高齢者が活力ある生き生きとした生活を送るためには、高齢者が自ら積極的に社会に参加し、尊厳をもって日常生活を送ることができる地域環境が必要です。また、生活不安を抱える高齢者には、安心して相談できる機関の情報や、地域の中の日頃の人間関係作りが重要です。</p> <p>高齢者やその家族の地域生活を支えていくためには、地域住民や地域に在る社会資源をネットワーク化することが重要であり、地域で共に支えあう意識を醸造すると共に、介護予防に関する具体的な支援体制を構築することが必要です。また、高齢者自身が自己実現を図りながら、それぞれ個人の尊厳が保持される生活を送ることが出来るよう、総合的な相談支援と権利擁護の視点を持った支援体制の構築が不可欠です。</p> <p>高齢者が住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けることができるように、地域における保健・医療・福祉の連携を図りながら、長期的・継続的・包括的な生活支援を行なうことを運営の基本と致します。</p> <p><b>【事業運営の基本方針】</b></p> <p>上記の運営方針に基づいて、以下の8つの考え方を基本方針に掲げて日々の業務に当たります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①地域社会で生活する権利を保障します。</li> <li>②個別サービスの構築を行います。</li> <li>③質の高いサービスマネジメントを実施します。</li> <li>④自己決定・自己選択を優先します。</li> <li>⑤わかりやすい情報提供を徹底します。</li> <li>⑥意見・質問・苦情に対して真摯な対応を行います。</li> <li>⑦高齢者のプライバシー保護に留意します。</li> <li>⑧高齢者を尊重し、尊厳の保持に努めます。</li> </ol> <p><b>【平成28年度の重点目標】</b></p> <p>基本的な業務遂行に加え、平成28年度は特に下記の6項目を重点目標として掲げ、鋭意取り組みを進めてまいります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①地域包括ケアシステム構築に向けた地域のネットワーク化</li> <li>②職員各自の専門性向上による地域支援の充実強化</li> <li>③認知症高齢者の早期発見・早期対応と家族支援の体制強化</li> <li>④地域ニーズの抽出と地域関係者との課題の共有化</li> <li>⑤地域ケア会議開催に向けた地域調整と効果的な会議の開催</li> <li>⑥ケアマネ支援を目指した地域ケア会議の定例的開催</li> </ol>

区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
	鶴ケ谷	<p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内の高齢化率が36%超と非常に高い。そのため、医療や福祉に関するニーズも高く、当センターで担当するケースも多問題(特殊詐欺や虐待に関する相談増等)な方が増加傾向にある。</li> <li>・集合住宅(2、6丁目の市営住宅や2、5丁目のUR住宅)の戸数が多く、そこに住む独居高齢者世帯や高齢世帯数も多く、医療や福祉ニーズが非常に高い。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療、福祉、行政、地域住民とのネットワークの構築と強化が急務</li> <li>・障害、児童、教育分野との連携</li> <li>・犯罪被害や虐待の防止等、高齢者の権利擁護活動の強化</li> </ul>	<p>地域支援事業</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域包括ケアシステム構築に向けた地域のネットワーク化</li> <li>2. 職員各自の専門性向による地域支援の充実強化</li> <li>3. 認知症の早期発見・早期対応と家族支援の体制構築</li> <li>4. 地域ニーズの抽出と地域関係者との課題共有</li> <li>5. 支援困難ケースへの支援強化と総合相談支援体制の確立</li> <li>6. 地域ケア会議の開催に向けた地域調整と会議の開催</li> <li>7. ケアマネ支援を目指した地域ケア会議の開催</li> </ol> <p>介護予防支援</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予防プラン件数増加への対応と円滑な業務体制の確立</li> <li>2. 手順に沿った支援とチェック、記録、ファイリングの徹底</li> <li>3. 予防プラン内容の質的向上とスケジュール管理の徹底</li> </ol> <p>機能強化専任業務</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域関係者との連携強化と社会資源の再発見・再構築</li> <li>2. 新総合事業に向けた地域の再構築</li> </ol>

区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
	六 郷	<p><b>【現状】</b> 六郷小学校区・地区外側は農村地域が残っているが、大部分は昭和50年代に建てた住宅が多い。農村地域では東日本大震災による被害が住宅などの建物は別にして、生活全体に少なく大きな変化は無かった。以前から多世代の家も多く家族内や隣近所の支援が厚い。中心部は昭和50年代に販売された住宅が多く、子供たちと同居世帯が少なく年々高齢者世帯や高齢者独居世帯が増加しており近隣との関わりが希薄な世帯もある。生活環境としては商店や金融機関も揃っており健康状態が保てていれば自立した生活が送れる地域である。 東六郷小学校区・震災により仮設・みなし仮設住宅での暮らしを経て、元の居住地や新しい地域での暮らしが進んできている。さらに平成28年度初めに完成予定されている復興公営住宅も完成予定で被災した世帯の生活の場も安定できる見通しが立ってきている。</p> <p><b>【課題】</b> 六郷小学校区・地下鉄東西線の開通によりバス路線や時刻の変化があつて、通院や買い物などの生活リズムがまだ整っていない高齢者もいる。今後高齢者世帯や高齢者独居世帯も増加が予想される。地震だけでなく水害など予想される地域なので、災害発生時の近隣住民による声掛け・避難必要時移動支援・日常生活の安否や変化の気づく体制強化の必要性。今後住めない地区として藤塚地区の集団移転・井土地区での希望者の集団移転した各地域で自宅完成後転居し新たな生活が始まったが、約5年それぞれ環境の違うところで暮らしてきたため、以前のような近所関係作りに戸惑っており高齢者もいる。時間をかけながら新たな地域コミュニティー作りが必要。 平成29年3月で東六郷小学校が六郷小学校と合併が決まっており、東六郷地域の住民減少・高齢化がますます進み、様々な活動に影響が出てくる可能性がある。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、集団移転地区(藤塚・井土)での町内活動・老人クラブ活動への協力</li> <li>2、要介護認定者担当居宅支援事業所との災害発生時の対応や役割分担について検討する会合を開催する。</li> <li>3、高齢者の日常生活に係る各機関への情報提供や支援必要時の連携取れるよう巡回活動を行う。</li> <li>4、介護予防教室で認知症予防だけの開催を連続で行う。</li> <li>5、各地区町内会・老人クラブ・サロン活動などへの協力を行う。</li> <li>6、総合相談に対応できる各職員の資質を高めるようケース検討を行う。</li> <li>7、高齢者に関する各機関(町内会・民生委員・福祉委員・老人クラブ・交番・病院・介護保険関係事業所など)と情報交換・情報提供を適時行う。</li> </ol>
若	沖 野	<p><b>【現状】</b>沖野地区は元々田畑の広がる農村地帯であった。今だ東側には田園が広がり、西側は昭和30年代からの宅地造成により、住宅が密集している。 公共交通機関は主にバスであるが、東西線開通の影響でバスの便が大幅に減少。利便性が悪化している状態にある。地域にはひとつの中学校、二つの小学校があり、徒歩で行けるスーパーやコンビニ、昔ながらの商店、銀行、医療機関等があり、日常生活は徒歩や自転車で充足できる環境にある。中学校区には全10町内会が存在し、サロン活動等も7か所立ち上がり、積極的に活動している。高齢化率は24%を超え、高齢者世帯や独居世帯も多く見られる。</p> <p><b>【課題】</b> 身寄りのない一人暮らしや認知症の高齢者世帯も増えて来ており、介護が必要な状況であっても、家族関係が希薄で緊急時の対応に苦慮する場合がある。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①地域包括ケアシステム構築の推進 高齢者が地域で安心して日常生活が送れる様に、地域課題を明らかにしながら、社会資源との連携や発掘等を行い、支援協力体制の構築を行なう。</li> <li>②総合相談支援業務の充実 出張相談会や定期訪問を通して、高齢者の早期実態把握に努めると共に、ニーズ把握、継続的な支援を行なう。</li> <li>③認知症高齢者や家族の支援 新たに配置となる認知症地域支援推進員を中心に地域で認知症高齢者の見守りネットワーク構築を行なう。また、サポーター養成講座、認知症カフェや家族交流会の実施により、安心して生活できる環境作りを行なっていく。</li> <li>④介護予防の普及・啓発 介護予防教室の実施や、介護予防自主グループの立ち上げ等の支援を行い、総合事業が円滑に実施出来る様居場所作りに取り組んで行く。</li> <li>⑤権利擁護制度の利用・促進 高齢者虐待防止ネットワーク構築事業を実施。権利擁護勉強会等を開催し、地域住民の権利擁護の普及啓発に努める。</li> </ol>

区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
林	河 原 町	<p><b>【現状】</b>                      圏域の高齢化率は19.9%、昨年より0.4%上昇(平成27年10月データ)。東北本線を挟み東西で、地域性が異なる。仙台市街地に近い西側(南材地区)は、地下鉄の駅も近く、商店街、医療機関も充足して便が良いが、マンションやアパート住居者等、地域との交流が全くない方も多い。一方東側の若林地区は、若林西復興住宅近隣は、スーパー等が出来て便利になった。東西線の開通に伴うバス路線の変更により、外出が不便になったという声が多く聞かれる。</p> <p><b>【課題】</b>                      震災以降、転出入が増えており、地域になじめず、交流を持ってない方も多い。関係機関・団体と連携した支援体制の取り組みが求められる。高齢者が孤立せず、必要な機関や、地域とのつながりを作ることで、この地域で安心して生活を継続できるような仕組みづくりが必要である。</p>	<p>① 高齢者支援ネットワークの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・包括圏域会議の2地域各1回の実施及び、地域を特定した圏域会議の開催</li> <li>・社会資源の把握と、連携が図れるための顔の見える関係作り(商店、金融機関等、高齢者の関わりのある社会資源)</li> </ul> <p>② 個別性を重視し、将来を見据えた協議による相談対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談に対して、対応方針を所内で協議し迅速に対応する体制</li> <li>・個別ケア会議の実施</li> </ul> <p>③ 地域各団体の活動が、継続発展していけるための支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで係わりのある各種団体への支援の継続と、新たな団体の開拓</li> <li>・高齢者の活動範囲の拡大のため、インフォーマルな団体の情報の把握と仲介</li> </ul> <p>④ 若林西復興住宅入居高齢者への支援</p>
	七 郷	<p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エリア構成:農業地域、復興住宅地域(荒井南「さきまち」ほか)、復興住宅地域(集合4[荒井東市宮、六丁の目中町市宮、荒井第二市宮、荒井南市宮]、戸建2[石場、神屋敷北])、仮設住宅地域(荒井小用地、荒井7号、六丁の目中町、卸町東)</li> <li>・自治会構成:13町内会(伊在の一部、六丁の目、上荒井、長喜城、中荒井、荒井市宮住宅、下荒井、四ツ谷、藤田、神屋敷、笹屋敷[荒浜含む]、荒井東市宮、荒井広瀬)</li> <li>・復興住宅の建設と地下鉄荒井駅周辺の開発が進み、環境が大きく変化しており、人口が増加している。</li> <li>・圏域内の高齢化率は17.4%であるが、農業地域や復興集合住宅の高齢化率が高い。</li> <li>・同居率は高いが、障害の子と高齢者の世帯、高齢者のみ世帯は年々増えている。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者人口の増加、高齢者が集中している地域がある。</li> <li>・復興市宮住宅や復興戸建住宅の新しいコミュニティ形成が難航している。</li> <li>・高齢世帯、親子世帯で問題を抱えているケースが多く、世帯支援が複雑化している。</li> <li>・見守り体制が作りにくく、問題が潜在化する傾向がある。</li> <li>・他の圏域から移り住んだ人が、地域に溶け込みにくい。</li> <li>・地域の結びつきは強く、口コミの効果が期待できる一方で、サロンやサークル、老人会の代表者を引き受ける人がいない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域包括ケアを実現するための土台をつくる。</li> <li>・町内会毎に地域を分析し、町内会単位で根拠に基づいた事業を展開する。</li> <li>・地域支援者と介護支援専門員、薬剤師との交流を図り、ネットワークを強化する。</li> <li>■ 地域における認知症支援の中核としての役割を果たす</li> <li>・地域に対して認知症についての普及啓発を行いながら、包括が認知症相談窓口であることを周知し、初期相談に繋げる。</li> <li>・虐待防止に力をいれる。</li> <li>・認知症カフェ等の開催を通じて、地域の中で本人家族等の交流及び家族支援を行う。</li> <li>■ 自立支援を重視した介護予防の推進</li> <li>地域住民が主体的に介護予防に取り組めるような介護予防の機会をつくり、自主グループやサロンの活動支援や立ち上げ、さらに新総合事業への移行を検討する。</li> </ul>
区	大 和 蒲 町	<p><b>【現状】</b>①大和地区総人口15047人、高齢者数2970人、高齢化19.7%。地区により、28.3%の地区もある。圏域内にはマンションも多く、近隣関係が希薄である。今年度復興住宅2ヶ所が入居開始となった。連合町内会、地区社協の活動は比較的まとまりがあり、今年度、モデル事業を実施し活動している。交通や買い物等生活しやすい環境。②蒲町地区総人口11951人、高齢者数2171人、高齢化率18.2%。地区により27.9%を超える地区もある。復興公営住宅1ヶ所・戸建の住宅建設・転入が多い。大和町とは対比的に、地域により、病院やスーパーが遠く、高齢の方によっては、生活のしづらさを感じている。</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内ごとに健康意識に差があることから、地域課題を抽出し、地域の相談窓口として、定着を図る必要がある。</li> <li>・地域全体で、認知症に関する相談件数が増加している。その為啓発活動や、支援体制を、整備していく必要がある。復興住宅等で転居してきた方に対して、孤立防止を地域と一緒に取り組む必要がある。地下鉄開業とバス路線の変更に伴い、市民の生活への影響が出ている地区もある。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.認知症に対する理解・対応方法を啓発し、地域の見守り体制の充実を図るとともに認知症家族交流会や認知症カフェを開催し、地域作りにつなげる。また、権利侵害の予防、発見に向けた取り組みを行う。</li> <li>2.包括ケアシステムを見据え、地域・関係機関とのネットワーク構築につとめ、個別ケア会議を活用し地域課題を共有し、改善に向け地域との関係作りを図っていく。</li> <li>3.支援を必要とする高齢者を発見し、支援体制を構築できるよう、協働体制を作るため、ワンストップサービスの拠点として、取り組む。</li> <li>4.地域での予防的取組みを支援し、介護予防に努めるよう、普及啓発を行っていく。</li> </ol>

区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
	遠見塚	<p>(南小泉南地区)  <b>【現状】</b>民生委員・町内会との連携が図れている地域が多く、様々な行事を通して地域を盛り上げようと努めている。運動教室が4箇所誕生した。  <b>【課題】</b>既存の自主サークルでは、虚弱な高齢者の参加拒否が見られている。地区福祉委員が選出されたが、活動に温度差がある。また、家族がアルコール・認知症・引きこもり等の抱え込みが見られている。</p> <p>(南小泉北地区)  <b>【現状】</b>民生委員・地区福祉委員・町内会が連携し、定期的なサロンは開催されているが、参加者が固定され新しい住民が参加しづらい。老人クラブの活動が3月で閉鎖になった。  <b>【課題】</b>老人クラブ閉鎖に伴い集会所で運動教室開催の意欲が高まりつつある。また、相談の抱え込みが多く、悪化してから表出することが依然多い。</p> <p>(遠見塚東地区)  <b>【現状】</b>3町内会に分かれているが、地域活動に温度差がある。運動する意欲があり、運動教室の定期開催につながった。  <b>【課題】</b>認知症や精神疾患の相談も多い。公共交通が脆弱で、店舗がなく生活に不便を感じている住民が多い。閉鎖的で相談が上がりにくい状況。</p>	<p>① 平成29年度から開始される「介護予防・日常生活支援総合事業」の開始に伴い、地域住民が混乱することのないよう、地域の実状を診断・把握し、ニーズを抽出し、地域にあった新たな社会資源の構築と、地域住民・関係機関とのネットワーク作りを強化していく。</p> <p>② 高齢化率の増加と共に、様々な相談が寄せられており、職員の質を高めながら、迅速に、関係機関と連携を図りながら適切に対応していけるよう努めていく。</p> <p>③ 認知症高齢者・その家族を支える取り組みを強化すると共に、地域の見守りネットワーク(遠見塚見守り隊・見付け隊)を充実させていく。</p> <p>④ 地域住民が、支えあい・協働することで、元気に安心して暮せる街づくりを応援していく。子供から高齢者まで、世代に関係なく地域の担い手(人財)を広く発掘していく。</p>
太	愛宕橋	<p><b>【現状】</b>          ・太白区内における愛宕橋地域包括圏域内の高齢化率は12包括中6番目の26.42%(前年度より0.82%増)であるが、後期高齢化率は3番目の14.70%(前年度より0.45%増)である。認定者率は24.19%と仙台市の中で1番高く、支援を必要としている方が増えてきているのが現状である。また独居、高齢者世帯が増えてきており、生活保護を受給している方も多い。          ・地形的に急な坂が多い地域であり、道幅も狭いことから高齢者が歩いて移動するには負担が大きく、交通事故もおきやすい。(実際1月には高齢者が車と接触し死亡する事故あり)バス運行できる道路が限られており、平成27年12月から地下鉄東西線が開通した影響でバスの本数が減り、交通の便が悪くなっている。          ・通所型・入所施設などの介護保険事業所は充実しているが訪問型が少ない。          ・圏域内の医療機関は開業医2箇所(内科1・整形1)と少ない。</p> <p><b>【課題】</b>          ・医療機関より、問い合わせや連絡はあるもののまだ密な関係には至っていないため、引き続き連携の図り方を検討していく必要あり。</p>	<p>・圏域内外の介護保険事業所・医療機関等とコミュニケーションを積極的に行っていくことで、連携しやすい関係作りを引き続き行っていく。また、その情報を整理して、地域や居宅支援事業所等へ情報を発信していく。</p> <p>・関わりが薄い地区や集会所がない地区、老人会活動がない地区などへ町内会長などを通じて関わりを持つようし、介護予防教室や講話活動を通じて包括の周知を図る。</p>



平成28年度 地域包括支援センター運営にあたっての基本方針等

【資料1-1】

区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
	西多賀	<p>【現状】 市民が集える西多賀市民センターを中心に、商店街・銀行・スーパー・医療機関などがあり、交通機関の便も良く、日中には人が良く集まる場所となっているが、圏域全体は勾配が急で高齢者にとっては外出し難い場所が多く存在している。年々高齢化が進み、慢性的に担い手不足が生じている。</p> <p>【課題】 地域・町内会の活動(地域交流等)の温度差顕著。年々高齢化が進み、身寄りのない高齢者のサポート、地域を支える担い手不足といった課題が深刻になってきている。</p>	<p>1、地域包括ケアシステム構築の基盤整備 圏域ケア会議、地域懇談会、小地域福祉ネットワーク等を活用して、住民のニーズ・地域課題・地域資源の明確化を図り、地域の関係機関と住民同士のネットワーク強化に取り組み。</p> <p>2、介護予防の推進 地域の高齢者の増加、介護予防・日常生活支援総合事業への移行等を考慮した上で、地域の高齢者の方々が、その人らしく、住み慣れた地域で安心して生活が続けることができるよう、「自立支援」の視座で介護予防事業を推進します。</p> <p>3、認知症の方とその家族の支援体制強化 認知症の方とご家族の心情を踏まえた「認知症に対する正しい理解」の更なる普及啓発を続けると同時に、認知症初期対応サポートチームをはじめとした関係機関との連携を深め、他職種連携による支援体制の充実を図ります。</p> <p>4、丁寧且つ適切な相談対応の徹底 地域の方々がより相談し易いセンター組織を日々の業務実践を通じて築いていきます。</p>
長	町	<p>【現状】 ①長町小学校地区は地下鉄、JR、バスなどの交通の便に恵まれ、商店街も立ち並び医療機関、金融機関等、介護サービス事業所やサービス付き高齢者住宅もあり、あらゆる面で充実している。 ②長町南小学校地区は近年マンション、アパートの集合住宅が増え、仙台南警察署、長町交番、役所などの公共機関がある。大型スーパーもあり、比較的交通の便にも恵まれている。あすと長町第二復興公営住宅がある。 ③鹿野小学校地区はバス通りの一部には商店、医療機関があるが、坂道が多く、高台に住宅街があるため交通手段が限られている。鹿野復興住宅がある。 ・H27.10.1現在、圏域の総人口32,281人、そのうち65歳以上6,669人で、復興住宅、マンション建設に伴い他の地区から転居した高齢者も多く、高齢化率は20.66%と年々増加している。また、要介護、要支援認定数の総計1,439人と市内ではトップの地区である。</p> <p>【課題】 ・独居や老老介護世帯の増加に伴い、認知症による介護負担と介護力が不足している為の相談件数が増加しており、近隣との関わりを持たない、持ちたくない世帯もあり、マンション世帯が多い地域では孤立化しやすい傾向である。 ・家族に精神疾患があるケースは認知症の理解に温度差が生じ、対応に苦慮することがある。認知症の早期発見・早期治療、状況把握の働きかけが必要である。</p>	<p>・地域住民が安心して住み慣れた地域で暮らせるように、地域に親しまれる総合相談支援窓口を目指す。</p> <p>・地域包括ケアシステム体制にむけて行政・関係機関とのネットワーク構築の充実を図るとともに、災害、虐待、徘徊、消費者被害等の敏速な対応に向けて継続的な仕組みづくりを行う。</p> <p>・個別ケア会議開催の推進を行い、そこから抽出された地域課題を明確化し住民が参画して支えられる町づくり活動を広げる。</p> <p>・高齢者の権利擁護の普及・啓発 ・認知症の病気の理解と正しい対応を地域に周知、認知症サポーター養成講座や出前講座を行い初期における適切な支援を行う。「認知症カフェ」開催の継続 ・自立した生活の支援「健康寿命」を延ばすため、介護予防の必要性を幅広く地域に周知する。 ・H29.4月からの介護予防・日常生活支援総合事業の展開にむけて、地域資源の発見とサロンやボランティアの多様な担い手の発掘を行い、必要なニーズにマッチングできるような地域に働きかける。</p>
郡	山	<p>【現状】 ①東長町小学校区：高層マンション群、高層市住、復興公営住宅等が林立するあすと長町エリアである。市内最大規模のプレハブ仮設(約230戸)は、平成28年2月時点で約30数戸にまで転出が進み、一方、あすと長町と諏訪には、プレハブ仮設と同規模の市営住宅(あすと長町・あすと長町第3)が建設され入居が完了している。②八本松小学校区：昭和40～50年代に開発された住宅地で宮城県沖地震以前に建設された大規模マンションも存在。③郡山小学校区：国道4号線バイパスの東側で、田畑を所有する兼業農家が点在する地区。小規模のアパートも多い。名取川広瀬川に挟まれた低地で、特に仙台南部道路長町IC一帯は大雨時に内水面被害が想定される。</p> <p>【課題】 ②③は高齢者世帯の割合が市平均を超える。現役世代の多い①も、高層市住、復興住宅をピンポイントで見るとかなりの高齢化率であると思われる。</p>	<p>・民生委員、地区社協、町内会等地域を知り、地域を見守る団体と連携し、必要な時に適切な支援が行き届くよう努める。 ・太白区(障害高齢課、家庭健康課、保護課等)、市社協太白区事務所(CSW、まもり一ぶ他)等と連携し、重層的且つ柔軟な対応を取れるようにする。</p>



区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
太	山 田	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当センター圏域内の高齢者数は平成27年10月現在で6844人、で高齢化率は33.6%となっている。なお、高齢化率については、この10年間で12.3%増加しており、急激な増加がみられる。</li> <li>・圏域内は高齢者のみの世帯や独居、認知症の方が多い傾向にある。</li> <li>・市営住宅で鍵が開けられず安否確認が困難となっている状況がある。</li> <li>・山坂多い環境で車が無いと高齢者が買い物に行くことが困難な状況がある。</li> <li>・圏域内に21の町内会、3つの連合町内会、2つの民児協、3つの地区社協があり各役員会で情報共有・交換しながら個々のつながりが継続している。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の現状、地域資源の発掘・活用し地域課題解決に繋がるような情報を明確にし、地域包括ネットワークの強化などの取り組みが必要である。</li> <li>・地域特性にばらつきがあり、関係性に留意しながらスムーズに各関係機関と連携が図れるように取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステムの構築実現に向けて、地域関係者や関係機関との連携を更に強化し、ネットワーク構築を図りながら地域課題の解決に取り組んでいく。</li> <li>・個別ケア会議などの機会を増やし、地域の関係者・関係機関や多職種との連携が図れるように努める。</li> <li>・現在ある地域資源と新たな資源を発掘し、地域の支え合いの輪となるように取り組んでいく。</li> <li>・認知症予防の観点から、今後も認知症に対する正しい理解の普及に努め、認知症サポーター養成講座を開催しながら地域での見守り、支え合い体制を構築していく。</li> <li>・認知症カフェを新たな地域でで開催できるように地域関係機関者と連携を図りながら取り組んでいく。</li> <li>・介護予防・日常生活支援総合事業への移行をはじめとした地域包括ケアシステムの構築を見据え、各関係機関と協働・連携しながら、地域で利用しやすい健康づくりとして自主グループ・サロンの情報提供を行うなど事業の普及・啓発に取り組んでいく。</li> </ul>
	西 中 田	<p>【現状】</p> <p>平成27年10月1日現在、圏域内の総人口30,877名に対して65歳以上の高齢者数が5,143名と高齢者数は年々増加しているが、それ以上に65歳未満の現役世代の人口が多い為、高齢化率では16.66%と近隣地域よりも低くなっている。</p> <p>総合相談等から見てきた現状としては、単身や高齢夫婦世帯、現役世代が一人でも両親等の介護をしている等の在宅介護や認知症に関する相談、ターミナルケアの相談が増えている。</p> <p>【課題】</p> <p>介護予防の推進、認知症の早期発見・早期対応に加え、要介護状態、認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるような地域での支援体制作りが課題である。</p>	<p>《ネットワークの強化》</p> <p>圏域内で活動するケアマネジャーに向けた情報交換会や研修会、個別相談等での支援や地域団体と協力して認知症を含む高齢者が安心して生活できる支援体制作りに取り組む。地域ケア会議を通して、地域の高齢者問題の共有や課題解決を図る。町内会毎に地域診断を行い、ニーズを把握し、社会資源の発掘に努める。</p> <p>《認知症の理解》</p> <p>圏域内の関係者や住民、ケアマネジャー向けに認知症サポーター養成講座を積極的に開催する。認知症サポーター向けのスキルアップ講座を行い、モチベーションの維持を図る。認知症カフェの設置運営に協力する。</p> <p>《介護予防の推進》</p> <p>必要な人が早期に元気応援教室や介護予防教室等を利用して介護予防に取り組めるよう二次予防事業対象者へのアプローチを強化する。地域で介護予防の受け皿になっているサロンや老人クラブの支援に加え、運動自主グループを増やすため介護予防運動サポーターの発掘や支援に取り組む。</p>
袋	原	<p>【現状】</p> <p>新興住宅地と昭和40年代に建売等で立てた戸建ての地域が混在している。商業施設、アパート等の賃貸住宅も多く住民の転入、転出が多い。65歳以上の人口は3,684人うち75歳以上は1,577人高齢化率は25.23%と年々高くなっている。今年度より町内会毎に数名の福祉員が発足。また、地区社協全体としてのサロンや11町内会のうち6町内会でサロン等の集いの場ができています。地域での見守りや集いの場づくりの必要性について認識が進んでいる。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・閉じこもりがちで地域と交流がない方の情報（見守りの有無も含め）が不足、または整理できていない。</li> <li>・サロンや見守り活動に対する意識に地域差がある。</li> </ul>	<p>地域包括ケアシステム構築に取り組み</p> <p>① 実態把握の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要介護者、閉じこもり、二次予防対象者の実態把握の継続</li> <li>・地域の支援状況や住民同士のネットワークの情報収集</li> </ul> <p>② 地域・関係機関とのネットワークづくりの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療と地域関係団体、介護保険事業所との連携を図るため顔の見える</li> <li>・関係づくり支援</li> <li>・町内会内のネットワーク把握と強化のため、町内会役員、民生委員、福祉員との懇談会を設け働きかけていく。</li> </ul> <p>③ 認知症施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター養成講座を開催し地域の認知症サポート体制を強化していく</li> <li>・認知症カフェを開催し認知症本人や家族が集え地域が認知症の正しい知識と理解を深められるようにしていく</li> <li>・認知症予防を含めた介護予防サロンを定期的に開催していく。</li> </ul>

区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
白	四 郎 丸	<p>【現状】                      圏域は四郎丸・東四郎丸小学校区である。                      四郎丸小学校区 高齢者2,100人 高齢化率29.74%                      東四郎丸小学校区 高齢者1,636人 高齢化率30.79%                      ・圏域は15町内会あり、農家が多い地区、新興住宅の多い地区、市営住宅が集中している地区など町内会によって特徴がある。                      ・高齢者が多くなっているだけでなく、独居高齢者が非常に多くなっており、特に市営住宅は独居高齢者が80%を占めるところもある。                      ・二つの特養をはじめ、高齢者の介護サービス事業所が複数あるほか、障害者(精神・知的・身体)施設も多く集まっている地域でもある。</p> <p>【課題】                      ・高層の市営住宅に住む独居高齢者が、閉じこもり、認知症や精神疾患によるトラブル、徘徊などの問題を多く抱えている現状がある。                      ・経済面、身寄りがいないなどが原因で、サービスにつながらない高齢者が増加している。</p>	<p>【高齢者の実態把握の強化】                      ・町内会単位で町内会長・民生委員・福祉委員と情報交換を行い、実態把握に努める。                      ・独居高齢者を中心にアウトリーチをおこない実態把握に努める。                      ・町内会単位のサロンに参加し、実態把握につなげていく。</p> <p>【地域支援ネットワークの構築】                      ・地域ケア会議を開催することで、地域関係機関のネットワークを強化する。                      ・町内会単位で情報共有の場を持つなどし、町内会との連携を強化する。                      ・圏域ケア会議を定期的に開催することで、ネットワークを強化していく。</p> <p>【認知症施策の推進】                      ・高齢者相談連絡所と連携を強化し、認知症の早期発見につなげる。                      ・各町内会単位で認知症サポーター養成講座を開催していく。</p>
富	沢	<p>地下鉄富沢駅より東側一帯の土地区画整理事業によりマンションや住宅が増え、転入者世帯の増加、更に西部富田地域土地区画整備事業が進展しており今後も転入者人口の増加が予想され、今しばらく高齢化率の伸びは低く抑えられる模様である。</p> <p>【課題】                      西部・富田地域土地区画整理により若い世代の転入者等が増える一方、従来から住んでいる住民の高齢化による独居高齢者、及び高齢者世帯の増加により、認知症高齢者も増えていくことが予想されるが、マンションなど近隣との接触の少ない世帯が多く、その世帯へのアプローチをどのように進めていくかが課題である。</p>	<p>テーマ:「認知症になっても住み慣れた地域での生活を継続できる支援体制づくり」                      ・高齢者の相談窓口としてサテライト相談会月1回開催を継続し、認知症カフェ開催時においても随時相談を受け付ける。                      ・町内会への積極的訪問で交流の機会をもち、情報共有をする。                      ・認知症サポーター養成講座を町内会単位で開催し、理解者・協力者を増やす。                      ・「認知症の人と家族の会」と協働し認知症カフェを毎月開催する。                      ・富沢包括サロン(認知症家族交流会)を年4回開催する。                      ・「圏域内事業所ネットワーク会議」を開催しその中に町内会役員と民生委員、サービス事業所と地域住民の代表の参加を求め、共通認識を持つことが出来る体制を構築する。                      ・居宅介護支援事業所のケアマネジャーが気軽にケースの相談ができる場(ケアマネサロン)を隔月で開催し、個別ケア会議開催へつなげる。</p>
茂	庭	<p>●茂庭台中学校区                      市営住宅とマンション群、一戸建て住宅とに分けられ、また、児童養護施設や障害者施設等の福祉施設が集中している。新興住宅地として開発されたが、当初に比べ、高齢化率が高くなり、空き家が目立つようになった。                      また、市営住宅やマンションを含め、高齢者(日中)独居世帯や高齢者世帯が増加している。都市型による地域性の特徴から、自助共助の意識は依然として低い。</p> <p>●生出中学校区                      田畑や緑が多い自然豊かな地域で、土着の人々が暮らし、多世帯同居世帯が多く、地縁血縁による結束力が非常に強い。しかし、後継者たる次世代の流出が多く、地元に戻ってくることは少ない。地域包括ケアの推進力となる支え手は少ない。                      近所との関係性を重視する傾向にあり、介護予防に対する偏見も強く、相談時には重度化していることが多い。</p>	<p>●地域関係者や医療・福祉関係機関との連携を強化し、個別ケア会議・包括圏域会議・多職種連携会議を通して、高齢者を支える体制づくりを行う。                      ●認知症理解の普及・啓発をはかり、早期発見、早期治療、早期対応ができるよう、また、認知症の方が地域で自分らしく住み続けることが出来るよう、医療機関をはじめ各地域関係機関と連携し、支援体制を構築する。                      ●高齢者が、主体的に介護予防に取り組み、地域の介護予防ができる環境にする。</p>

区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
区	秋保	<p><b>【現状】</b></p> <p>① 人口（「仙台市ホームページ 統計情報仙台／人口」よりH27.10.1現在）  秋保 秋保町前年比 仙台市 仙台市前年比  人口 4,232人 -39人 1,055,613人 +2,788人  高齢者人口 1,381人 +46人 229,454人 +8,442人  高齢化率 32.63% +1.37% 21.74% +0.75%  後期高齢者人口 693人 +5人 106,792人 +3,683人  後期高齢化率 16.38% +0.27% 10.12% +0.33%  ・馬場・長袋・境野・湯向・湯元と5つの大字に分類され、地区毎に特徴がある。  地区 人口 秋保町に占める人口の割合 高齢者の人数 高齢化率 世帯数 秋保町に占める世帯の割合  馬場 648人 15.31% 232人 35.80% 237 12.47%  長袋 1,117人 26.40% 440人 39.39% 443 23.30%  境野 316人 7.47% 109人 34.49% 112 5.89%  湯向 508人 12.00% 121人 23.82% 237 12.47%  湯元 1,643人 38.82% 479人 29.15% 872 45.87%</p> <p>② 自然環境  ・東西24.5km南北12.2km、総面積は145km<sup>2</sup>と長方形で、太白区の面積230km<sup>2</sup>の63%を占めており、広い。  ・豪雪地帯に指定されており、高齢者の除雪作業が負担になっている。</p> <p>③ 交通  ・公共交通機関であるバスの運行回数の減少や運行経路の変更など、高齢者の生活範囲が非常に制限されている。通院や支所・区役所への手続き等が不便である。</p> <p>④ 生活  ・近くの小売店が閉店され、高齢者は食材や日用品等は購入できず、移動販売車や生協や小売店の配達に頼っている。</p> <p>⑤ 仕事  ・農業地区のため、以前は野菜を自給していたが、高齢化により野菜づくりができなくなったり、有害鳥獣による被害で野菜作りを断念している。しかし、農家として米や野菜を購入することに抵抗が大きい。  ・生産年齢人口の就業場所が秋保町外である場合が多く、結果として日中独居の高齢者が多い。</p> <p>⑥ 伝統文化  ・介護保険が開始されて徐々に浸透してきてはいるが、介護の社会化がすすんでおらず、家族が高齢者を介護するのは当然という風土があり、他人を家庭に入れることに抵抗を感じる人もいる。介護保険サービス利用にかかる自己負担額による経済的負担を避けたいとの理由を挙げる世帯もある。</p> <p>⑦ コミュニケーション  ・近所付き合いが密で「講」などの歴史のある助け合い精神がある。その反面、冠婚葬祭に費用と労力がかかる。</p> <p>⑧ 医療・福祉  ・介護保険入所施設は特別養護老人ホームが2ヶ所（50床と60床）とグループホームが1ヶ所（2ユニット 18床）  ・居宅介護支援事業所2ヶ所、居宅サービス事業所は通所介護1カ所、訪問介護1カ所である。  ・開業医が2ヶ所、耳鼻科1ヶ所、歯科が2ヶ所。専門医にかかろうとすると長時間（片道1～2時間）かけて総合病院に行かなければならない。</p> <p>⑨ 小学校区ごとの特徴と課題  <b>【馬場小学校区（馬場地区）・秋保小学校区（長袋地区・境野地区）】</b>  ・交通の便が悪く、通院が困難なこともある。  ・日中独居世帯、日中高齢者のみ世帯が多く、買い物などに不便である。  <b>【湯元小学校区（湯向・湯元地区）】</b>  ・アパートが多く独居世帯が多い。秋保地区では人口の半数近くを占めており、顔見知りの関係が必</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議を開催し、その地域の特性や課題、地域資源の把握・発掘などをしていくと共に、地域住民をはじめ、各関係機関等とのネットワーク構築に努めていく。</li> <li>・認知症の早期発見・早期対応ができるような体制づくりに取り組み、地域住民が気軽に認知症・介護について話し合える機会を増やしていく。</li> <li>・介護予防に取り組む地域団体・自主グループなどが、今後も地域住民によって自主運営できるよう支援を行なっていく。</li> </ul>

平成28年度 地域包括支援センター運営にあたっての基本方針等

【資料1-1】

区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
		<p>ずしも取れてはいない。  <b>【課題】</b>                      平成27年10月の時点で後期高齢者が693人で前期高齢者の688人を上回り、後期高齢者を支える力が弱くなっていく。生活に根差した暮らしをしており、現住所にずっと住み続けたいという考えを持っている人が多い。                      高齢化率の上昇は地域住民が感じてはいるものの、高齢者が必要としているものを地域住民が主体となって整理する機会がなく、問題解決の行動には至っていない。                      高齢者自身が健康で自立した生活を送りながらお互いを支えあえる地域づくりが必要である。</p>	

区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
	泉 中 央	<p>【現状】                      仙台市内でも高齢化率は圏域全体で低く、学生や現役世代、転勤族なども多い。商業地区やマンションが多い泉中央地区。農村部の名残があり、大家族も多い野村地区。古くからの世帯と転居が混在する七北田・市名坂地区。坂道が多く大学生が多く住むアパートと戸建てで構成されている天神沢地区。地域が横に広い本田町地区。戸建て住宅が多い友愛町地区など、地域の特徴は様々である。</p> <p>【課題】                      ・町内会に入っていないマンション・アパートも多く、孤立・閉じこもりなどの現状把握が難しい。                      ・各地区の特性を理解し、社会資源の掘り起こしをしていく必要がある。</p>	<p>地域の課題や特性を理解し、地域住民との信頼関係をより強いものにします。</p> <p>① 七北田中学校区ネットワークを継続し、事業所と顔の見える関係を作り地域の声や現状の把握に努めます。</p> <p>② 認知症の方の居場所作りとして、既存のカフェ4か所に加え各地区1か所を目標に展開をしていきます。</p> <p>③ 特に医療との連携に力を入れ、多職種連携に向けて取り組みます。</p> <p>④ 障害など幅広い相談に対応できるように、横のつながりを作っていきます。</p>
	将 監	<p>【現状と課題】</p> <p>○将監地区は昭和45年頃に造成された住宅地であり、27年度4月時点で、総人口13,717人、高齢者数4,388人となっている。高齢化率31.99%は仙台市の20.99%・泉区の22.33%に比べ10%以上高い。65～84歳の方が多く、町内によっては40%を越える地区もある。後期高齢者の増加、独居高齢者や高齢者世帯の増加・認知症相談の増加・老人クラブの消滅・町内会・自治会役員の担い手が不足している。又、集合住宅の多い地区では、戸建て地区と比較し、所得格差が大きく、生活保護世帯・身寄りが無いといった理由で、第三者の介入やサービス導入が困難な事例が多い。</p> <p>○将監殿地区は平成13年頃より分譲が開始。新興住宅地で総人口も、27年度4月時で3,001人・高齢者数135人・高齢化率4.50%であり、30～50代の世代が最も多い。高齢者人口も増加している為、継続した周知活動は必要である。</p> <p>近年は東日本大震災で被災し、転居してきた方から、慣れない地域で閉じこもりになりがちであるという相談が多く、近隣との交流の少ないことが読み取れる。</p> <p>○桂地区は27年4月時点 総人口6,344人・高齢者数1,114人・高齢化率17.56%で、将監地区と比較すると低く、商店が少ないまとまった住宅街でもある。サロン活動は定期的に行っているが、日常生活支援(見守り活動等)が不足している。戸建てや自治会内では、近隣の付き合いが少なく、地域住民同士の関係が希薄である。又、近年は子供の数が少なく、福祉や地域での活動意識が乏しくなっている</p>	<p>○町内会単位で地域診断を行い(今年度は5か所)、地域での課題や取組状況、社会資源などを把握する。また個別ケア会議も年に2回は開催し、地域課題を明確化できる材料を持つ。</p> <p>○認知症関連事業では初期対応の必要性に応じて医療機関との連携も図り、当事者も参加できる認知症カフェや家族会を継続し、認知症対策を進めていく。</p> <p>○地域包括支援センターの役割を町内、医療機関、金融機関、薬局に継続して周知していく。昨年度立ち上げた、担当圏域で活動している、医療事業所と介護事業所の「連携の会」をより充実した会に向けられるよう、支援を行っていく。</p>

区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
泉	寺岡	<p>&lt;寺岡地区&gt; 高齢化率は30%を超え、独居や高齢夫婦世帯も増えてきている。特に60代の人口比が群を抜いて高い。長年の地域内体制が継続されており変化しにくい。</p> <p>&lt;高森地区&gt; 高齢化率は30%超。マンション世帯、新興住宅が増えたことで30～40代層が増えているが、60代以上との世代間交流の機会は少ない。地区社協中心の活動が主。民生委員からの相談依頼増。</p> <p>&lt;高森東地区&gt; 地区社協(ボランティアグループ)の活動にて見守り、サロン活動など活発。立地的にスーパー等の店舗がないため買い物に不便さあり。</p>	<p>住み慣れた地域で互いにやさしく見守られる地域づくりをしていくためにネットワークを構築していく。</p> <p>1、地域包括ケアシステムの構築に向けた介護予防・生活支援の充実。</p> <p>①生活支援サービスの充実 ・ボランティア・NPO・民間企業・協同組合等の生活支援サービスを提供できるためのグループの立ち上げや後方支援。(地域サロンの開催・見守り安否確認・外出支援・買い物、調理、掃除等の家事支援等) ②高齢者の社会参加 ・興味、関心がある活動・現役時代の能力を生かした活動・新たにチャレンジする活動(趣味活動・健康づくり活動・地域活動・ボランティア活動)</p> <p>2、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができる地域づくり ・認知症の理解を深めるための普及・啓発の推進(認知症の理解を深めていく・認知症サポーター養成講座・小中学校へのPR活動、認知症カフェの推進)</p> <p>3、地域ケア会議の推進 ① 個別ケア会議を通して、地域支援ネットワークの構築。 ② 理想の地域の明確化と地域課題の把握 ③ 高齢者の自立支援の取り組み</p>
泉	松森	<p>【現状】①鶴が丘地区 ・高齢化率33.33%(平成27年度10月1日時点、松森地区を含む) ・一人暮らし、高齢者世帯が増加している ・鶴が丘1丁目町内会では地域支え合いまちづくり活動(鶴が丘はあとネット)が平成27年4月より始動した(別紙①参照)</p> <p>②松陵地区 ・若い世代が多く、サロンやサークル活動が充実し、活発である</p> <p>【課題】・認知症の症状が進行してからの相談ケースが多く、早期対応が必要である ・介護予防教室の参加や、相談件数が少ない(松森台、県営自治会) ・松陵地区は毎年役員の変動がある為、地域の関係機関とのネットワークを再構築する必要がある</p>	<p>・地域で認知症の方とその家族を支える体制作り(家族交流会、介護予防教室、サポーター養成講座等を展開していく)</p> <p>・地域における支え合いの仕組み作り(運動自主グループ、鶴が丘1丁目町内会支え合いまちづくり活動への支援)</p> <p>・潜在的なニーズの見えにくい地区で、介護予防に積極的に取り組めるようにする(別紙②参照)</p>
泉	向陽台	<p>各地域でも問題意識は高まってきており、見守りなどボランティア活動が始まってきた。支え手の高齢化もあり、若い世代の取り込みが課題となっている。</p> <p>1 向陽台・山の寺・明石南地区(連合町内会)</p> <p>【現状】住民活動が全般的に活発。</p> <p>【課題】○向陽台・山の寺は高齢化進み認知症の相談が増加 ○市民センター、集会所のような集う場が少ない</p> <p>2 永和台・歩坂・百合ヶ丘地区</p> <p>【現状】○大学があるため、学生が多いものの支え手となる住民が少ない</p> <p>【課題】○坂が多く店舗が少ないので、買い物や外出が困難 ○高齢世帯が多く、住民活動への参加が限られている</p>	<p>○地域団体との連携による地域づくりの促進 地域の各団体との連携により、地域のニーズを把握し、資源づくり・支え手づくりのための協働をしていく(地域圏域ケア会議、オレンジリング交流会等)</p> <p>○地域での「生きがい・居場所づくり」 見守りが必要な方や孤独を感じている方、つながりが少ない方など、地域の中で必要な方々に合った集いの場を作り、支えていく(カフェ、趣味サロン等)</p> <p>○高齢者の実態把握 地域のネットワークを生かした実態把握とともに、町内会ごとに民生委員・町内会・社協と要援護者リストを活用して実態把握を進めていく。</p> <p>○認知症対策の推進 ・「認知症になっても安心して暮らしつづけられる地域づくり」を目指して、地域の有志に「オレンジリング交流会」の開催を継続し、地域資源の発掘・創造を継続 ・当事者の「女子会」(カフェ)、本人と家族の会「わすれな草の会」の継続支援</p>

区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
	南 光 台	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者人口5983人、高齢化率25.23%、75歳以上人口率12.42 %</li> <li>・ここ1年間の予防給付件数急増(27年1月192件、28年1月234件)</li> <li>・介護施設の開設状況-サ高住-4 GH-3 老健-1</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独居や老老介護、認知症、要介護者、障がいを持つ高齢者の増加に伴い、在宅生活困難者が増加しており、地域包括支援センターの周知と医療や介護、地域との連携の重要性がまじっている。</li> <li>・介護予防の普及と介護予防マネジメント実施の拡大が必要。</li> <li>・高齢障がい者等支援困難者への適切な支援へのセンター職員の力量のアップと多職種連携の強化の必要性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターの周知、浸透の取り組みの継続。</li> <li>・多職種連携による地域ケア会議の開催に向けて、地域関係者や居宅介護支援専門員への周知・支援に努め、必要時には個別ケア会議を開催する。居宅介護支援者が困難事例を抱え込まない支援としても取り組んでいく。</li> <li>・生活支援コーディネーター業務の継続・強化。地域の生活支援コーディネーターとの活動の協働の取り組みの開始。</li> <li>・認知症への支援の強化を継続する。「DASC21」を活用してのアセスメントと医療機関との連携。認知症家族の会の強化。サポーター養成講座の開催で支援体制作りをおこなう。</li> <li>・介護予防の普及啓発の継続と二次予防事業対象者への介護予防ケアマネジメントとフォロー。介護予防自主グループ支援の継続、介護予防自主グループ立ち上げの支援、介護予防教室の開催。</li> <li>・地域包括支援センター職員の研修等の参加での力量拡大と情報の共有の強化。</li> </ul>
区	八 乙 女	<p>【現状】</p> <p>黒松小学校区…県営住宅や市営住宅、公団などの集合住宅が多い。人口は震災後、増加してきたが平成26年に減少に転じている。しかし、高齢者は増加しており、高齢化率は17.67%。勾配のある道路が多く、高齢者の外出を困難にしている。</p> <p>八乙女小学校区…マンション・一戸建てが多く、新たに造成され出来た新興住宅地には、若い世代の家族が移り住んできており、新たな町内として活動を始めている。人口は震災後、増加し続けていたが、H27年は減少傾向。高齢化率は20.88%と年々上がってきている。</p> <p>【課題】</p> <p>両地域に共通して、老人会など高齢者の活動団体への参加者が減ってきており、活動休止となったものもある。地域活動に意欲的な人達が高齢化しており、活動支援者の世代交代がうまく運べていない団体が多く見られる。</p>	<p>上記「担当圏域の現状と課題」、「中期的な(3年間)の運営方針」を踏まえ、平成28年度のセンターを運営するにあたっての基本方針について要点を記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の支援を迅速・親切丁寧にもた、公正中立の立場で行っていくことで、地域からの信頼を得られるようにする。</li> <li>・地域内の各関係団体と協力しあうことで、地域への支援を幅広く、また、先を見据えた効果的な活動が行えるようにする。</li> <li>・地域資源の再確認を行い、必要な資源創出のための働きかけを行う。</li> </ul>
	虹 の 丘	<p>【現状】</p> <p>圏域内の高齢者は7,000名を超え、高齢化率は28%である。高齢化率が35%を超える三つの団地(中には40%を超える町内もある)は造成から約35年が過ぎ、活発であった町内会・地区社会福祉協議会・老人会等の活動も、世代交代が進んでいない。団塊の世代によっての高齢化が進んでいるため前期高齢者が多いのが特徴である。高齢化率が8～15%の商業地区では集合住宅や賃貸住宅の多く若い世代の増加によって高齢者に向けた活動は活発ではない。平成27年4月からは高齢化率が30%を越える復興公営住宅も圏域に加わっている。</p> <p>【課題】</p> <p>住民と一緒に今後の町内会活動を考える機会を得ながら、同時に介護予防の普及啓発を行い、相互扶助など地域住民の力を引き出す働きかけをしていく必要がある。高齢者にはどのような支援が必要であるかのニーズを聞き取る機会や、住民が主体となって活動できることは何かを考えてもらう機会を作る必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談窓口であることの周知を徹底する。</li> <li>・地域全体で介護予防に努めていく意識付けを積極的に行い、またそのための活動組織の支援を継続する。</li> <li>・継続して地域の実状を知る機会や情報を提供する機会を得ていく。</li> <li>・町づくりを意識した、住民や各関係機関と連携を強化する。</li> <li>・認知症の方やその家族を支える活動を行う。</li> <li>・復興公営住宅の入居者の個別支援のため関係機関との連携を図る。</li> </ul>

区	地域包括支援センター名	現 状 ・ 課 題	基 本 方 針
	根 白 石	<p>【現状】 ・「包括圏域会議」を2回開催し、地域包括ケアシステムについての説明と、包括ケアシステム構築にむけての取り組みや課題について情報共有を行った。また、「高齢者見守りネットワーク連絡会」を開催し、各担当の民生委員、圏域内の介護支援専門員等と勉強会、グループワーク等を行い、地域の課題、認知症の理解、高齢者等の見守り等について意見交換した。</p> <p>【課題】 ・地域アセスメントを実施し、関係団体との情報共有、ネットワークの強化を図る。また民生委員、社会福祉協議会等の各団体が、個別に同じ内容の活動を行っていることに対して、今後、情報を共有しながら協同した取り組みを行う必要がある。 ・医療、介護の連携を強化し、高齢者が地域で安心して過ごせるように働きかけていく必要がある。</p>	<p>① 地域診断と、地域特性に合った支援 ② 見守りネットワーク・包括圏域会議の開催 ③ 個別ケア会議の開催 ④ ケアマネジャーネットワーク会議 ⑤ 年6回の広報誌を作成 ⑥ 防災活動 ⑦ 消費者被害の予防 ⑧ 老人会、自主グループとの関わり ⑨ 医療と介護の連携</p>
	南 中 山	<p>【現状】 南中山地区は、相談件数、認定者数も多いが、老人会が週1回であるなど活発。北中山地区は、買い物に不便を抱える方もいる。認知症等の相談が多い。連合町内会から脱会する地区があり、地域支援に際し、配慮を必要とする。 西中山地区は、女性を中心に自主グループが週1回で活動。男性の参加できる仕組みが不定期開催の老人会程度。新たな住人が多く、被災者も潜在している。</p> <p>【課題】 ①地域アセスメントを深化させ、地域課題を明らかにし、地域住民と共有していくことで地域主体の地域包括ケア体制づくりの方向性を整理する。 ②認知症高齢者の適切なケアマネジメントに向けた支援者間の連携強化と、それに伴い、介護者の負担軽減のための社会資源の把握及び開発を推進する。 ③介護予防効果の高い地域の自主的な活動を推進できるよう普及啓発を継続することと、自立支援の観点から、参加意欲を高める動機づけが必要。</p>	<p>住み慣れた地域で住み続けられるための基盤として以下の方針で進めます。</p> <p>①南中山地域包括支援センターの職員の顔の見える関係づくりのきっかけとして高齢者の集まる機会や関係機関に出向いていきます。 ②住民目線を意識しながら、地域住民と協同していくことで、連携強化、新たな地域課題の明確化、地域の人材発掘に向け活動していきます。 ③地域課題の把握・共有と、医療と介護の連携促進のため圏域会議、個別ケア会議を推進し、顔の見える関係づくりと役割の理解を進めていきます。 ④判断能力が不十分な人、権利擁護が必要な人の意思決定支援として、本人の行為ごとで把握していくことで、本人の能力の発揮を支えていけるよう、本人理解をセンター内および関係者間で共有できるようにしていきます。 ⑤地域住民の参加を促進し、居場所を持ち、地域住民の顔の見える関係づくりの中で効果的な介護予防に取り組むことができるようにします。 ⑥(⑤を推進できるよう)参加意欲を高める介護予防ケアマネジメントの展開に向けて、動機づけのための専門的知識及び技術向上に向け、各種研修参加とその共有、内部研修の充実を図ります。</p>